

## 情報連絡員からの報告（要旨）

### 《製造業》

#### 食料品製造業

1. <青森県 乳製品 >  
全国上半期搾乳量が昨対102%となった。年末は学校が冬休みとなるため、今年は複数の大手メーカーが季節限定の生乳を使用した製品を発売し、生乳の魅力を発信している。
2. <東京都 カレー粉 >  
業務用製品を作っている組合員の売上は若干回復しているが、コロナ禍前には程遠い。燃料のほか小麦等の原料は価格が上昇している反面、取引条件を見直すことができず収益は悪化している。
3. <新潟県 醤油 >  
11月の売上は前年比92%。生揚げ、醤油、醤油加工品の3分類で前年比減となった。販売先の廃業も出てきているようであり、今後を懸念している。
4. <山梨県 水産食料品 >  
コロナ感染者数減少により業務用及びギフト関係の商品が好調で、前年同月比122%となった。更に、前々年同月比110%となっており、コロナ禍前の水準を上回った。
5. <徳島県 味噌 >  
前年同月比、みその生産量は100.6%、出荷量は98.5%であった。前月比では99.5%、出荷量は101.9%であり、3ヶ月連続100%超えとなり、回復基調は続いている。
6. <鹿児島県 鰹節 >  
11月に入って世の中が動き出し、多少なりとも消費が上向いた感がある。しかし、鰹沖漁が悪く原料不足で魚価が20%以上急騰しているものの、売値には乗せられず厳しい状況となっている。

#### 繊維・同製品製造業

7. <山形県 織物製成人女子・少女服 >  
展示会等はコロナ禍前のような開催頻度に近づいているものの、売上は回復の兆しが見えない。呉服・服地とも原料系等の値上げにより今後の受注・採算について難しい状況も発生している。
8. <栃木県 繊維染色 >  
全体的に好転が見られるも、電気・ガス・産油等の経費や輸送費の増加、染料・助剤の値上げがあり工賃のアップがなければ厳しい状態である。
9. <奈良県 繊維連合会 >  
大手百貨店や専門店の11月売上は、大半が前年同月実績を上回っており、前々年同月比でも回復基調になってきている。第6波が懸念されるなか、いかに冬物在庫を売り切るかが重要となる。
10. <岡山県 アパレル >  
ジーンズを含むカジュアル市場は、昨年比若干減少の結果となった。店頭では客数も増加したものの、月前半は気温の高い日が多かったことにより冬物の動きが悪く減少となった。
11. <愛媛県 繊維染色 >  
糸の受渡し数量は3,719梱で対前年比1.5%の減少となった。仕事量の回復の兆しもあるが、原材料や副資材、燃料費の高騰により収益が悪化している。
12. <沖縄県 繊維・同製品 >  
かりゆしウェアの販売については、冬季に入りつつある季節的要因から売上は落込む時期である。来期に係る新商品の縫製が本格化するまでやや稼働率は落ちる時期である。

#### 木材・木製品製造業

13. <秋田県 一般製材 >  
製品販売量は11月まで前年比139%、製品販売額は181%増加している。8月の製品価格値上の効果が出ている。外国産材の輸入減少が続いており、年内は国産材の需要は堅調とみている。
14. <山梨県 家具 >  
新型コロナウイルスの沈静化により受注が増加してきたが一時的なものだと捉えている。今後の見通しはまだ楽観できない。海外生産品の欠品により補完生産が発生している。
15. <長野県 一般製材 >  
ウッドショックの影響で、新築現場の工事が進まないため、制作作業が滞り気味という声尾をよく聞く。また逆に滞っていた現場がまとまって再開され、残業しているという事業所もある。

16. <和歌山県 家具 >  
資材等が入手困難になっている。値上りにより、納品日の遅延や受注キャンセルが発生している。新規見積りも受注時の材料価格が全く読めず失注してしまうケースが多くなっている。
17. <鳥取県 製材品 >  
製材用素材の入荷量、製材品の生産量はともに前月比で不変。合板の生産量も不変。原木価格はヒノキが落ち着いているが、杉材は高止まり。製材品価格は依然強い。
18. <熊本県 一般製材 >  
11月売上は前月、前年同月比大幅に増加した。仕入原木量は前月より約300トン減少。前年と比較すれば、在庫が約5,000トン減少している。依然受注量は増加傾向にあり、原木の確保が課題。

## 紙・紙加工品製造業

19. <群馬県 紙製品 >  
設備操業度は上昇し売上高も増加した。しかし、製造に関する副資材の値上げが相次ぎ収益を圧迫している。更に、主資材の段ボール原紙の値上げも仕入先から通知されている状況にある。
20. <東京都 紙製品 >  
紙加工品の原料及び副資材が値上げされ始めている。収益が減少しているなか、中小企業・小規模事業者には今後厳しい対応が求められる。
21. <愛知県 段ボール >  
11月度は段ボールメーカーの平日稼働日数は20日で前年比1日増。先月まで生産調整局面であった飲料関係は人流増加に伴い比較的堅調な荷動きとなった。
22. <三重県 紙器段ボール >  
前月比、自動車、電機関係で生産量が増え、段ボールケースの需要も伸びている。組合員企業の生産量は前年同月と同じか、5~20%前年比マイナスであり、企業間で差が出ている。
23. <大阪府 古紙収集加工 >  
11月も裾物古紙の発生は段ボール古紙を除き低調である。特に新聞・雑誌については対前年同月比で落ち込んだままであり、景況は悪化している。
24. <高知県 機械すき和紙 >  
県内家庭紙業界は、昨年同月と比較して11月は横ばいであったが、コロナ前と比較すると大きく落ち込んでいる。今後急激に回復することは、現時点では期待できない。

## 印刷

25. <福島県 印刷・同関連 >  
新型コロナウイルスの収束により、年末商戦など各種イベントの開催による経済活動の再開が見られ、チラシ印刷などの引合いも出てきた。年末年始にかけて業況の好転が期待できる。
26. <東京都 印刷 >  
酢酸エチルの供給が一時的に停止し、稼働停止となった機械がある。原料の調達不安や高騰予測から仮需要の動きが活発化し、各社とも1~3ヶ月分の受注残を抱えている。
27. <石川県 印刷 >  
11月は昨年よりも、売上、収益共にやや状況が好転していると思われる。しかし、一過性の様相を呈しており、先行きの見通しが立てづらい状態である。収益は例年の8割程度である。
28. <愛知県 印刷 >  
感染状況の落ち着きとともに印刷物の需要は徐々に回復しつつある。しかし、原材料費の値上げに加え、年明けには紙の値上げが発表されており、収益は厳しい状況。
29. <香川県 印刷 >  
組合員の動向として現状維持が続いている。組合組織の規模も減少するなか、組合として業界情報を組合員に共有できるよう働きかけているが、功を奏してはいない。
30. <宮崎県 印刷・同関連 >  
今年の後半に印刷インキとPS版が値上げになり、来年1月1日出荷分から印刷用紙全般が現行価格より15%以上の値上げとなる通知が来た。コロナ禍で経営が厳しいなか、ますます厳しくなる。

## 化学・ゴム

31. <茨城県 自動車部品 >  
組合員の中には、売上等が順調なところもあるが、全体としては厳しさが増している。
32. <富山県 医薬品 >  
原料の高騰の影響により、価格の引上げや生産終了になる製品が出てきている。

33. <長野県 プラスチック製品 >  
11月は先月同様成形品の受注回復により、売上は前年同期を上回る結果となった。金型販売については前年同期を下回ったが、全体売上において前年を上回ることになった。
34. <大阪府 石鹼洗剤 >  
コロナ禍で消毒剤・石鹼・ハンドソープ・台所用洗剤・住居用洗剤など特需が発生した品目は、現在でもその反動は見られるものの落ち着きを取り戻しており、全体としてほぼ前年並みとなっている。
35. <和歌山県 化学工業 >  
11月は、対前月比では染料、医薬品が好調も医農薬中間物の減少が大きく、出荷量2.1%増も、出荷額22.7%の大幅な減少であった。売上・稼働率ともに二極化が見受けられる。
36. <広島県 プラスチック製品 >  
自動車は以前の減産の状況から11月は急な増産に入り、稼働率が上昇した。しかし、人手不足で計画的な増産体制に入れず、残業や休日出勤の対応となっている。

#### 窯業・土石製品製造業

37. <岩手県 生コンクリート >  
民需の増加している地域がみられるものの、官需は減少地域が多く、依然として出荷量は前年を下回る水準が続いている。
38. <岐阜県 タイル >  
内需低迷により引続き各組合員は減産、冬期休暇の長期化を想定している。ただし、原材料価格上昇につき価格転嫁については適正に対処していく模様である。
39. <滋賀県 陶器製品 >  
産地で開催した秋の売出しイベントや観光客の入込みは以前の水準まで戻りつつあり、雰囲気も明るくなってきている。生産も食器類を中心に持ち直しの動きがみられリバウンド消費に期待している。
40. <愛媛県 窯業 >  
業況は変化ないが、原油価格の上昇により燃料であるブタンガスが毎月のように値上がりしている。また、屋根工事材料の合板ベニヤも同じく1.5倍程度の値上りで入手困難になっている。
41. <大分県 コンクリート製品 >  
本年度はこの段階においてもコンクリート2次製品に係る公共事業の現年度分の発注が前年度をかなり下回っている。12月以降の発注増を期待しているが、今後の状況が少し心配になっている。
42. <沖縄県 生コンクリート >  
11月の出荷実績は対前年比で15.9%減となった。公共工事においては対前年比で35%減となり、先月同様、防衛庁関連工事・海自工事・学校関連工事が減少したが、公共施設関連が増加した。

#### 鉄鋼・金属製造業

43. <北海道 鋳鉄铸件 >  
自動車向け鋳鉄铸件は前年同月比▲10%、自動車向けはプラスとなっている。原材料、副資材が高値で推移する中、鉄材、木材の入手が困難になってきている。
44. <埼玉県 鉄鋼・金属 >  
鉄鉱石、原料炭の高騰とタイトな需給環境により、鋼材価格は一段と上昇圧力が強まり、主な鋼種は、11月より更に15円/kg高となった。工場の稼働率は、80~85%である。
45. <岐阜県 金属製品(輸出) >  
ホテル向けのカミソリはオリンピックのために増産したが無観客の影響で85%減となった。巣ごもり需要でキッチン用品全般の売上は伸びている。刃物製造職人の不足が大きな課題となっている。
46. <和歌山県 金属素形材製品 >  
売上高は、前年同月比で、9%アップした。依然として、半導体不足、コネクター不足、海外調達部品の不足で、顧客の生産が一進一退の状況である。
47. <高知県 刃物・金物類 >  
前年と比べほぼ横ばい。受注はあるものの生産の絶対数に限度があるため、供給がおぼつかない状況。新型コロナウイルスの影響に関しては、小売関係は少し良くなったのかもしれない。
48. <熊本県 異業種 >  
受注減少の一方、原材料の価格が上昇しており、この状態が続くと廃業が増えてくると思われる。燃料価格高騰で、昨年同月と比較すると約30円/l上昇、月300万円程のコスト増となっている。

#### 一般機器製造業

49. <秋田県 金属加工 >  
受注は相応にあるものの、材料(鋼材)の高騰(商品によっては20%の値上げ)により、収益面が悪化している状況にある。

50. < 栃木県 一般機械器具 >  
前年同月比、売上高は微増となっているが、仕入資材の高騰が続き一部調達が困難な状況で操業度（稼働）に影響が出ている。企業間格差があるものの収益悪化企業は少なくなってきた。
51. < 福井県 機械工業 >  
先月に引き続き、原材料価格の上昇分を製品価格に転嫁出来ていない会社が出始めているが、設備の操業度も上昇してきていて、業界全体としては、好転に向かっている模様である。
52. < 京都府 一般機械器具 >  
売上高は増加傾向にあり受注量も安定しているが、9月からの自動車産業の生産調整の影響が徐々に出てきている。再度生産開始との朗報はあるが、2～3カ月先の見通しは不安材料が多い。
53. < 奈良県 機械 >  
業界全般では、半導体不足による自動車の減産、銅・ニッケル等の材料費の高止まり、海外からの部品の調達難等で、先月と変わりなく厳しい状況が続いている。
54. < 佐賀県 機械金属 >  
当団地は、金属加工、機械部品製造、印刷業の企業が主であるが、収益面は前月比で売上の減少傾向により悪化し、反面、前年同月比では売上増加となり好転した。

### 電気機器製造業

55. < 山梨県 電気機械器具 >  
前年同月比売上、収益ともに増加したが、材料の値上り分の販売価格への転嫁が課題となっている。ようやく今後の受注が見通せるようになってきたが、感染症の変異株の拡大を懸念している。
56. < 三重県 電気機器 >  
鋼材、非鉄金属類とも価格の値上りが止まらず、材料不足であるが半導体関連の制御部門が好調になりつつある。但し、電機関連はまだ戻る傾向はない。
57. < 京都府 電気機器 >  
広汎な業態に亘り受注の増加が認められるが、材料の高騰により利益の確保に苦慮している。半導体等調達が難しい部材・部品が発生しており、操業に支障をきたすことを危惧している。
58. < 鳥取県 電子部品 >  
部材調達の影響は少し緩和されたが先行き不透明で、人員不足は更に厳しさを増している。海外生産から国内回帰の傾向もあるものの期間限定になる可能性がある。
59. < 広島県 電気機械器具 >  
11月の売上は前月比2%、前年同月比15%減少となった。電子部品の価格が上昇傾向で調達が難航する部品もあり、納品に影響が出た。特に半導体関連部品は早めの調達が必要となっている。
60. < 長崎県 電気機器 >  
新型コロナウイルス感染症の影響で既に受注が減少していることから、当面の間売上減少は避けられない。国内のコロナ感染者数は落ち着いてきているが、先行き不透明な状況が続いている。

### 輸送用機器製造業

61. < 群馬県 自動車・同附属品 >  
自動車関連部品メーカーでは、慢性的な半導体部品の供給逼迫を原因とする生産計画や人員配置の調整に苦慮しており、厳しい状況が続いている。
62. < 静岡県 輸送用機械器具 >  
自動車メーカー各社は生産計画を増産に上方修正しているが、下請中小企業は依然として部品の調達が計画通りいかない状況が続いており、齟齬が生じている。
63. < 兵庫県 輸送用機器 >  
国内生産は半導体等の調達困難は継続しているものの、ほぼ順調に推移。但し、東南アジア関連では、コロナ禍の影響でCKD関係部品は落ち込みがあり、生産も落ち込みが目立っている。
64. < 島根県 自動車部分品・付属品 >  
11月の売上は前期に比べ+1%となった。半導体不足による生産調整が少し落ち着いてきたと思われる。続く12月、1月は2,500～2,600万で内示が入っており、8～10月と比べれば回復してきた。
65. < 山口県 鉄道車輛・同部品 >  
鉄道車両関係は、国内外ともに数年先の新車両計画は不透明で確かな見通しが立たない状況である。半導体は、例年の2～3倍の受注量で好調、2～3年は順調に推移していくと思われる。
66. < 愛媛県 造船 >  
組合員の仕事量は減少したままで、厳しい状況が続いている。売上高は全体的に減少傾向となっている。帰国を希望する外国人実習生が多く、帰国時期が迫るたびに頭を悩ませている。

## その他の製造業

67. < 秋 田 県 曲げわっぱ >  
WEB等を活用して営業を展開している企業は、売上が改善されてきている。
68. < 千 葉 県 採石 >  
新海面処分場工事での石材搬入の受注により、11月は前月比では下回ったが前年同月比で上回った。前年比では93%の状況である。
69. < 東 京 都 ガス圧接 >  
稼働率は50~110%で乱高下していて安定した需要がない。年末に向けて仕事がなく、年末年始の動きが少ない。年末の駆け込み需要も今のところ見込みがない。
70. < 石 川 県 プラスチック製品 >  
受注としては堅調に推移しているが、これから先は不透明である。今年度に入り樹脂材料の入手が難しくなっており、特にPBT、PA66、PETなどのエンプラ関係が入手困難となっている。
71. < 愛 知 県 アウトソーシング >  
自動車生産では、9月10月の生産調整の反動で、11月はその巻き返しで多忙となっているが、国内人材の採用だけでは限界があり、今後も人材不足が大きな課題となりそうだ。
72. < 香 川 県 綿寝具 >  
前月同様、前年同月と比べて増加した。小売りも活発で売上也上昇している。防衛省の布団も製造に取りかかっており、順調に出荷している。しかし、原油価格高騰の影響が今後心配である。

## 《非製造業》

### 卸売業

73. <宮城県 再生資源 >  
鉄スクラップ相場は、11月に入り全国的に高値修正局面を迎え、関東では値下がりしたものの関西では横這いとなり、市中でのスクラップ回収量の増加が見られず、値下げが鈍い地域も多い。
74. <千葉県 医薬品 >  
実働日数は前年より1日多く実績も前年比上昇している。新型コロナウイルスの感染状況は落ち着き、外来診療や病院での手術と入院患者数が昨年より増加傾向にある。
75. <富山県 セメント >  
石炭価格高騰に伴い、各セメントメーカーが来年2月から大幅値上げを打ち出してきており、組合活動をしていく中で、私製袋との間に更に価格差が出ることで数量減販に繋がるのが危惧される。
76. <滋賀県 食料品市場 >  
野菜は上旬が比較的温暖で潤沢な出回りも、中旬以降は低温で、鍋物需要の長ネギ・白菜等の引合いが出ている。入荷量は前年比128%と増加、単価は前年比106%でやや高値となった。
77. <山口県 乾物 >  
海苔、海産物の出庫数が入庫を大きく上回り、倉庫売上は前年に比しやや減少した。コロナウイルス感染者の減少により、流通が好転し、今後は入庫も増加する可能性があると思われる。
78. <沖縄県 自動車 >  
新車の納期遅延がつづき、需要が新車から中古車へ移ったが、オークション仕入価格高騰や顧客の個人売買サイトへの移行に伴い、買取りが困難な場合が目立つようになってきた。

### 小売業

79. <宮城県 鮮魚 >  
海水の温暖化が続き、魚が獲れない状況が続いている北海道で赤潮が発生し、秋サケ、昆布、ホッキ貝等多くの海産物が死滅した。売る魚が無く、価格も高いことから困惑している。
80. <東京都 中古自動車 >  
ミニバン、SUVの引合いが多く、価格帯では100～150万円次いで50～100万円の車両が多く求められている。卸売は良質車の在庫不足から落札価格が高くなる傾向が続いている。
81. <富山県 ガソリンステーション >  
緊急事態宣言解除されたものの、ガソリン価格の高騰による買控えにより販売が振るわないため、今年のガソリン販売量は、コロナ禍で需要が減少した前年を若干下回る見込みである。
82. <三重県 電器 >  
11月の販売も大変苦戦し前年から約1割落とした。4～11月累計でも同様の状況である。特に主力商品のエアコン、冷蔵庫の販売苦戦が続いている。洗濯機も予想以上に苦戦であった。
83. <徳島県 ショッピングセンター >  
11月は前年比、既存店で売上98.1%、客数99.2%だった。また全館では107.6%、104.1%。業態別には核店舗を含む食料品が102.7%で、身の回り品100.3%、衣料品91.0%と続いている。
84. <鹿児島県 中古自動車 >  
11月に入っても、半導体不足等による新車の長納期のため、タマ不足に陥っている。多少は改善されてきたが、まだ当分は続きそうである。先月同様、オークション価格が高騰している。

### 商店街

85. <青森県 商店街 >  
コロナが収まりつつある中、コロナ前のようにはなかなか戻らず今後の展望を考え閉店、または規模縮小などを余儀なくされている現状。急速に空き店舗が増えている。大型店舗の空きが目立つ。
86. <福島県 商店街 >  
新型コロナウイルス感染者数も減少傾向にあり、県民割プラスで予約状況も良好である。しかし、変異株やガソリン高騰の影響から旅行控えが再び広がることを懸念している。
87. <福井県 商店街 >  
去年より好転しているように感じられるが、まだまだ購買の動きが悪く、コロナ前の数値には届いていない。また、駅前には再開発工事の真っ只中で来客は戻っていない。
88. <兵庫県 商店街 >  
当ショッピングセンターの地域は大手人材派遣会社の進出が進んでおり、当店舗も3F全フロアを賃貸することとなった。事務所として300名以上の従業員が勤務する予定で、期待が大きい。

89. <高知県 商店街 >  
飲食店等への人の流れは少しずつだが回復中だ。それ以外の個店への流れはまだ感じられない。商店街に人が歩いていない。閉店を考えている個店もあるのが現状だ。
90. <大分県 商店街 >  
11月は感染者減少により人出や売上が好転してきている。飲食店も客足が戻ってきてる感じがある。アルバイトの確保が難しいとの声を聞きだした。売上も昨年並みだが、一昨年程ではない。

## サービス業

91. <北海道 公衆浴場 >  
コロナ感染者の新規感染者数は大幅に減少しているが、新たな変異株感染も報道されてきているなか、不安は大きい。日常の衛生管理は、今まで通り徹底していく。
92. <茨城県 ホテル・旅館 >  
観光系施設の顧客の流入は徐々に好転しているが、前年と前々年同月と比較しても、売上・収益・入込客数ともに減数となっている。一方、ビジネス系施設では、売上・収益とも増加に転じている。
93. <東京都 自動車整備 >  
整備の売上は微増で推移している。整備要員数も微増となっているが、電動自動車などに対応するため仕事量も増えているおり、慢性的な人手不足が続いている。
94. <山梨県 理容・美容 >  
従業員の定着率が悪く、雇用人員が減少している。また、コロナ禍で営業活動が限られるため新規顧客の開拓が難しく、固定客をいかに大切に定着させていくかが当面の課題である。
95. <大阪府 地質調査 >  
11月も受注は高水準を維持している。府下の公共事業に伴う地盤調査のみならず公共事業の実施時期が年度未完了で、中国地区からの業務依頼も上半期に比べ増加している。
96. <高知県 旅行 >  
組合クーポン前年同比 89%、全旅クーポンを合わせて対比75%。感染状況は落ち着いているが、一般団体の利用は極めて低い水準である。旅行業界の前途は依然として大変厳しい。

## 建設業

97. <埼玉県 内装工事 >  
組合発行の防火壁装ラベル・防災ラベルの売上は、昨年11月に比べ35%減少した。壁紙・床材の仕入価格が9月から15%値上りしているが、今後の資金繰りへの影響が心配される。
98. <山梨県 型枠大工工事 >  
材料の高騰が続いている。型枠工事に不可欠なコンパネ、桧木、釘等の金物の価格がこの半年間で3割ほど上昇、品不足となっている。赤字工事の増加や組合員の倒産が予想される。
99. <岐阜県 室内装飾 >  
11月に入り少し物件が動き出しているが、売上や収益状況をみると固定経費等の出費が通常よりも厳しくなっている。この不景気により業務撤退または引退した職人も多くなっている。
100. <三重県 水道工事 >  
資材の入手が困難な状況が続いている。半導体を使用するトイレ、給湯機器が入手できない状況である。代替品等で施工してきたが、代替品もなくなっている。
101. <大阪府 タイル工事 >  
現状の業績は好転しているが、半年先の物件については競争が激しくなっており、コロナ前の単価、契約単価での取引は難しくなることが予想される。
102. <佐賀県 鉄構 >  
手持工事量は0.7ヶ月～6ヶ月、工場稼働率は20%～100%と前月比減少。鋼材価格の高騰、納期の長期化が継続しており業況は厳しい。地方は需要の端境期・コロナ禍影響で回復が長引いている。

## 運輸業

103. <北海道 一般貨物自動車 >  
宅配事業は好調を維持。チャーター及び引越案件は例年の売上を維持しているがスポット案件は減少傾向が続いている。運送マッチングアプリを運用する会社が勢力を伸ばしている。
104. <宮城県 タクシー >  
前年の輸送人員及び収入は、前々年(コロナ前)対比、共に43%減少した。今年は、月初こそ昨年よりも良好と感じたが、以降は伸びが鈍化した。LPG価格は、前月比6%上昇している。
105. <神奈川県 道路貨物 >  
売上はコロナ禍前の8割程度であり、まだ回復には至っていない。燃料価格の高騰は深刻であり、政府の対応を期待したいが、全くスピード感がない。

106. < 静岡県 道路貨物 >  
11月は中旬以降、荷物情報が増加してきたが、燃料高騰が経営を圧迫し長距離輸送を避ける傾向が強まっている。尿素水（アドブルー）の値上げもあり、運送業者には非常に厳しい状況が続く。
107. < 鳥取県 貨物運送 >  
農産物の輸送が依然として低調となっており相対的に厳しい運行が続いている。復路荷物も前月に比べ情報量は増加傾向にあるが空車車両との調整が合わず非効率な運行が増えている。
108. < 鹿児島県 運輸 >  
野菜や青果物の上り荷物の物量は若干少なかったが、下り荷物は例年並みで推移した。鳥インフルの拡散防止でタイヤ廻りの消毒を徹底している。燃料価格が高止まりして収支は悪化している。

#### その他の非製造業

109. < 群馬県 砂利採取 >  
売上高・生産量がともに増加するも、燃料・資機材が高騰しており生産コストが上昇した結果、収益状況は悪化した。
110. < 神奈川県 不動産 >  
業者のリスク回避による買控えのために、流通在庫減少のためか、一時的にエンドユーザー向け販売価格が上昇している。
111. < 新潟県 砂利採取 >  
令和3年11月度の骨材生産量は前年同月比103.5%、令和3年1月～11月の累計では前年比100.5%となり、ようやく昨年の業況まで回復してきた。
112. < 岡山県 信用組合 >  
11月に入り飲食店も徐々に回復しているが、コロナ禍前と比較するといまだ減少している。12月は資金需要も増加が予測される事から資金繰り支援はもちろん、本業支援も継続して行っていく。
113. < 広島県 不動産 >  
前年比・前年同月比は特に変化無し。12月、1月は公的評価作業によりやや多忙になる予定である。依然として旧市街地の建売用地の供給不足から素地価格（業者仕入値）が上昇傾向にある。
114. < 福岡県 その他 >  
本業の質取引は取扱件数の減少が続いているが、高級時計の売買相場の高騰により販売実績は上昇傾向にある。